

## 平成21年度 第5回 鳥取大学経営協議会 議事要旨

日時 平成22年1月19日(火) 14:30~16:30  
場所 事務局棟3階 第1会議室  
出席者 安藤 賢、柴田 英杞、長谷川 善一、古澤 巖、吉岡 秀樹、  
能勢学長、若林理事、林理事、小林副学長、井藤副学長の各委員  
欠席者 岡本 公男、平井 伸治、豊島病院長の各委員  
[陪席者] 森本監事、本名理事、岩崎理事、高阪副学長、岸田副学長、  
清水副学長、若副学長、矢部地域学部長、田中工学部長、  
中島農学部長

議事に先立ち、学長から、本日は、次期中期目標・中期計画についての最終案等の審議の他、22年度の本学予算案内示の報告も予定しているので、委員の皆様から様々な意見等を賜りたい旨挨拶があった。

### 議 題

#### 1. 中期目標(原案)及び中期計画(案)

小林副学長から、資料1に基づき、来年度からの第二期中期目標期間の「中期目標(原案)・中期計画(案)」について、文部科学省からの指摘に基づき見直した事項等について説明があり、審議の結果、本案をもって文部科学省に提出することについて、承認された。

#### 2. 平成22年度学内予算編成方針(案)

若林理事から、資料2に基づき、「平成22年度学内予算編成方針(案)」について説明があり、審議の結果、承認された。なお、本方針に基づき、今後予算配分案を作成する旨説明があった。

#### 3. 救命救急センター移転増築計画の変更

井藤副学長から、資料3に基づき、救命救急センターの整備について、病院の目的積立金に加えて、県の地域医療再生計画を中心として多額の支援がいただけることから、2階部分に、多機能多用途の診療室を計画する旨説明があり、審議の結果、承認された。なお、救命救急センターの利用状況について、軽症者に対する特別料金の設定により、軽症者が減少しているのに対し、重傷者が増加して

おり、より本来の機能に近づいてきている旨説明があった。

#### 4. その他 中高一貫教育

学長から、現在検討中の中高一貫教育校の設置計画については、新政権の下で教員養成の仕組みが大きく変わることが想定されることから、状況を注視する必要があるので、当面計画を延期すること、及び、附属学校の見直しについて検討は続けることについて説明があり、審議の結果、承認された。

##### 委員の主な発言

教員養成の仕組みが固まらない中で、中高一貫教育を検討しても意味あるものにはならないと思われる。

教員養成が6年になった場合の大学院の定員をどうするかを検討する必要があると思われる。

教員養成を6年にすることは、全員を奨学金でまかない、卒業後は全員を教員に採用するくらいの基盤がないと、優秀な学生の確保は難しいと思われる。

## 報 告

### 1. 平成22年度予算内示

若林理事から、資料4に基づき、平成22年度予算について、国立大学法人全体の運営費交付金が前年比0.9%減の1兆1,585億円であったが、1月6日に文部科学省から示された本学の運営費交付金の内示額は、退職手当や特別経費の増等により、前年比4.1%増の115億円となった旨報告があった。また、主な増減額、臨時的減額及び評価反映分等の内容等について報告があった。

### 2. 「とっとりバイオフロンティア」

林理事から、資料5に基づき、医学部内に地域産学官共同研究拠点を設置し、鳥取県・鳥取大学・地元経済界等が医学部の染色体工学技術を活用し、新しい産業を創出する「とっとりバイオフロンティア」構想におけるこれまでの経緯について報告があった。また、(独)科学技術振興機構(JST)からの補助として、9億円が採択となったことや、今後の整備計画等についても報告があった。

最後に学長から、今後も引き続き委員の皆様から様々なご意見、ご指導、ご協力を賜りたい旨挨拶があった。

以上